

平成 27 年度第 2 回一関市まち・ひと・しごと創生有識者会議

日 時 平成 27 年 7 月 29 日（水） 14 時～16 時
場 所 一関市役所議会棟 議員全員協議会室

次 第

1 開 会

2 挨 拶

3 協 議

(1) 「一関市人口ビジョン（骨子案）」について

(2) 「一関市まち・ひと・しごと創生総合戦略（骨子案）」について

4 閉 会

平成27年度第2回一関市まち・ひと・しごと創生有識者会議 出席者名簿

【委員】

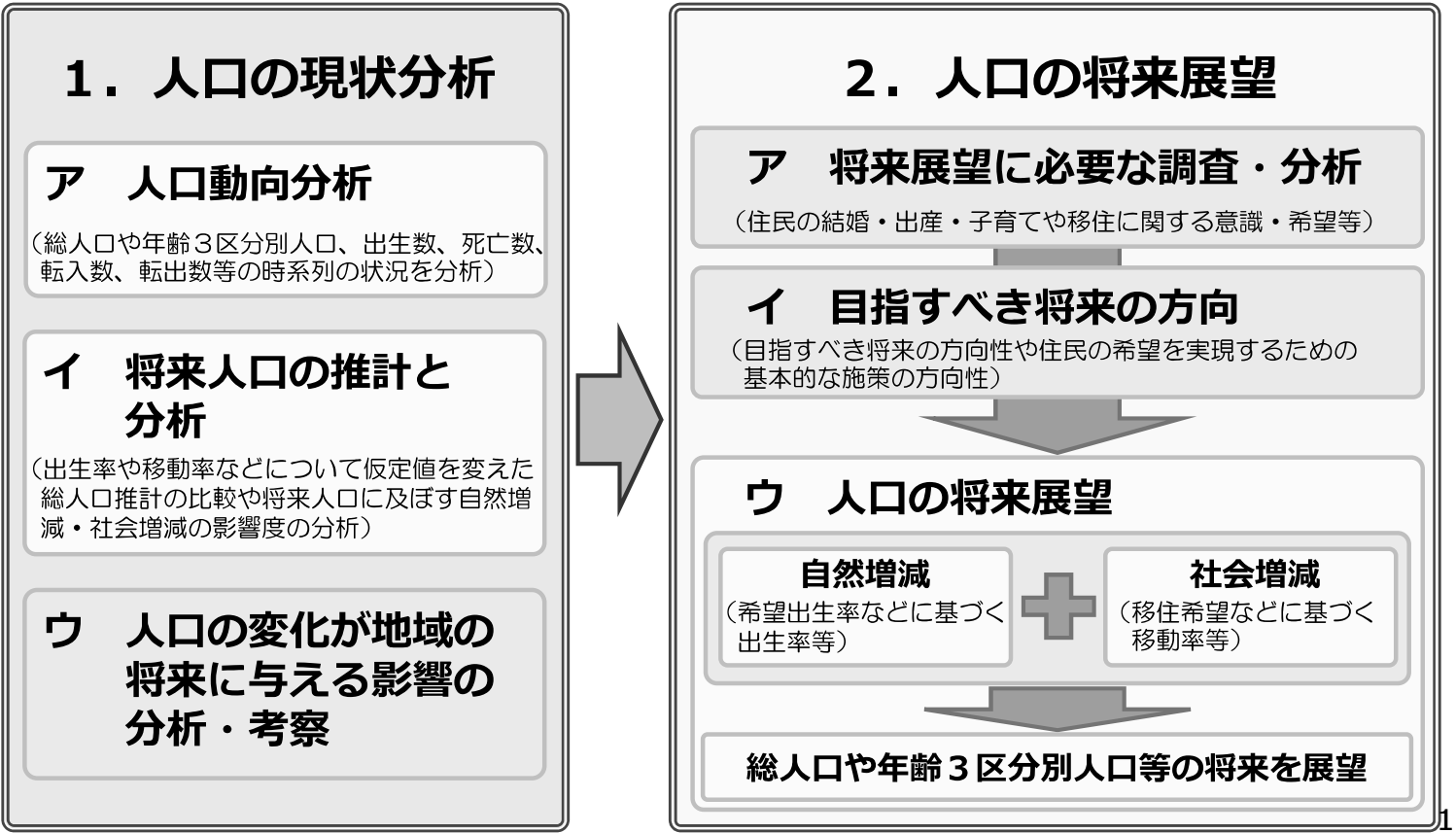
団体名	職名	氏名	備考
岩手県南広域振興局	経営企画部産業振興課主査	秋山 真紀子	
いわて平泉農業協同組合	代表理事専務	伊藤 龍治	欠
ニッコー・ファインメック(株)	代表取締役社長	小野寺 真澄	欠
一関コミュニティFM	放送局長代理	河合 純子	(副座長)
東日本旅客鉄道	一ノ関駅助役	熊谷 由美子	欠
一関信用金庫	常務理事	佐々木 吉幸	
一関商工会議所	商業部会長	佐藤 馨	
岩手日日新聞社	総務局総務部	佐藤 進	
一関商工会議所	女性会会長	佐藤 善子	
一関工業高等専門学校	校長	柴田 尚志	
一関市男女共同参画プラン策定懇話会	委員	鈴木 里美	欠
一関市子ども・子育て会議	委員	滝上 亜寿香	
岩手県立大学	地域連携室特任准教授	千葉 実	(座長)
一関公共職業安定所	所長	千葉 幸則	欠
連合岩手一関地域協議会	事務局長	野村 勉	
岩手銀行	一関支店支店長	藤田 勝敏	
修紅短期大学	講師	渡邊 美紀子	欠

【市出席者】

副市長	田代 善久	
市長公室長	佐藤 善仁	
政策企画課長	千葉 敏紀	
政策企画課主幹	藤島 修	
政策企画課長補佐	佐藤 正幸	

地方人口ビジョンの策定イメージ

- 国の「長期ビジョン」を勘案しつつ、人口の現状を分析し、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を提示。
- 対象期間は長期ビジョンの期間（2060年）を基本。（地域の実情に応じた期間の設定も可）



将来人口推計について

将来人口推計にあたっては、国立社会保障・人口問題研究所の推計及び日本創成会議の推計も参照するが、本市独自の推計を行う。

<独自推計の概要>

○ 1歳階級別人口を用い、1年ごとの推計人口を算出する。

10月1日現在の人口^{*}に基づき、1歳ごとの1年後の人口変化率(死亡や移動による増減率)を算出し、近年の平均値を利用して以降の人口動向を推計する。

^{*}岩手県住民移動報告年報の計数を使用

<独自推計の手順>

1 コーホート変化率の算出

男女別に、平成22年のA歳の人口と翌年の人口(平成23年の(A+1歳)の人口)により、その変化率を算出する。同様に、平成23年、24年、25年のA歳の人口と翌年の人口の変化率を算出し、その平均を「A歳のコーホート^{*}変化率」とする。 ^{*}コーホートとは、同期間に出生した集団のこと

なお、100歳以上の人口は一括りで公表されていることから、99歳及び100歳以上の人口と翌年の100歳以上の人口から変化率(99歳以上の人口変化率)を算出する。

2 出生率の設定

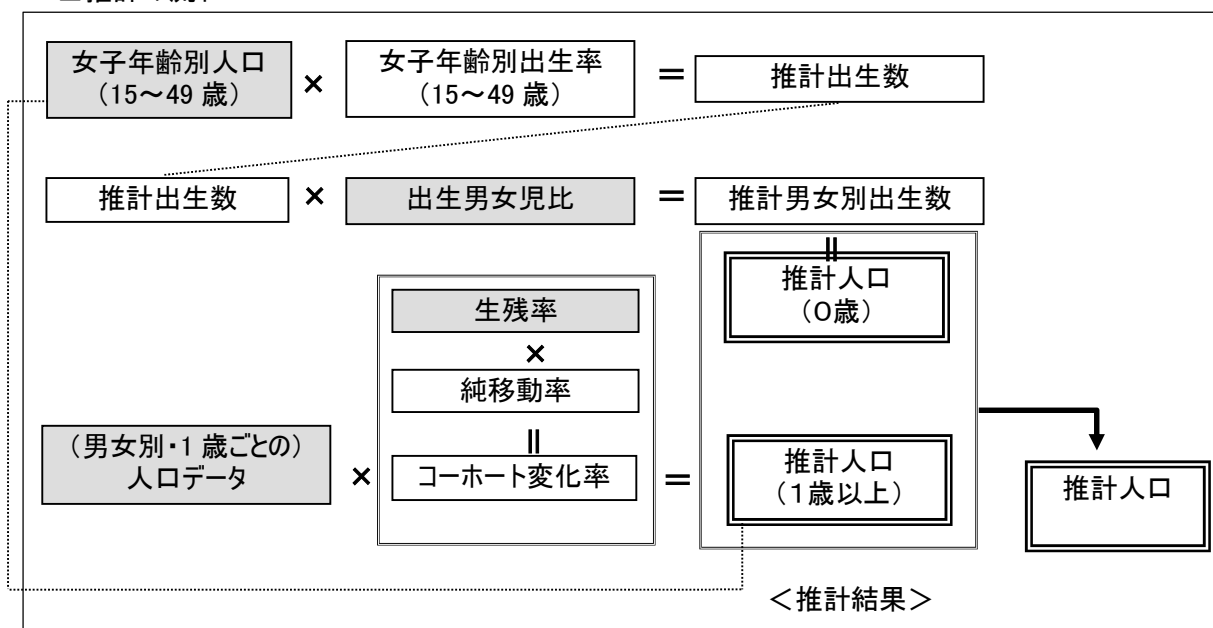
出生率は、人口動態統計による最新値である平成25年の当市合計特殊出生率から、女性5歳階級別出生数と女性5歳階級別人口を用いて5歳階級別出生率を算出する。なお、出生率は推計期間中変動しないものとする。

3 将来人口の算出

1歳以上の人口については、前年の各歳の人口にコーホート変化率を乗じて算出する。

0歳人口については、15歳～49歳女性人口の推計値に年齢(5歳階級)別の出生率を乗じて出生数を求める。なお、出生男女比は、平成22年から26年の0歳児の男女比を用いる。

■推計の流れ



■推計の流れ（例）

《男》

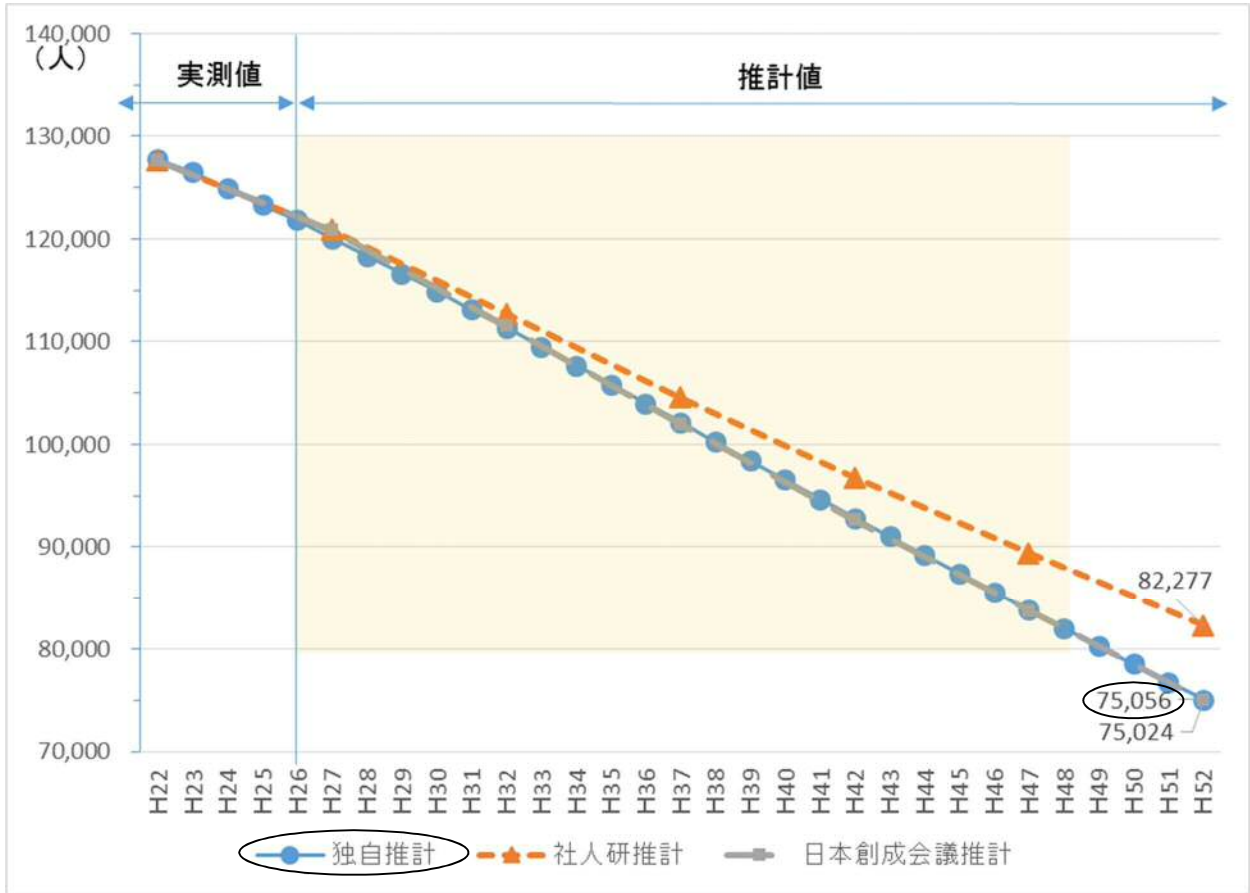
	27年	コホート変化率(平均)	28年
0歳	400人	(0歳→1歳変化率)	383人
1歳	421人	(1歳→2歳変化率)	398人
∪	∪		∪
15歳	622人	(15歳→16歳変化率)	546人
16歳	594人	(16歳→17歳変化率)	632人
17歳	644人	(17歳→18歳変化率)	603人
18歳	594人	(18歳→19歳変化率)	593人
∪	∪		∪
48歳	740人	(48歳→49歳変化率)	666人
49歳	607人	(49歳→50歳変化率)	738人
50歳	753人		605人
∪	∪		∪

《女》

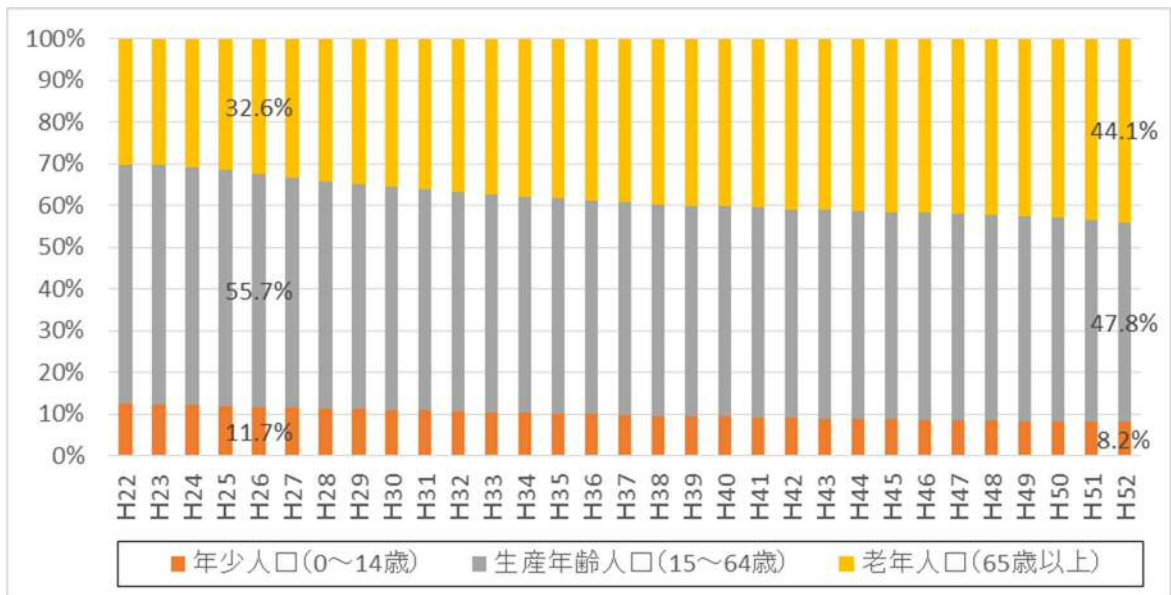
	27年	コホート変化率(平均)	28年
0歳	368人	(0歳→1歳変化率)	353人
1歳	340人	(1歳→2歳変化率)	366人
∪	∪		∪
15歳	529人	(15歳→16歳変化率)	562人
16歳	548人	(16歳→17歳変化率)	526人
17歳	576人	(17歳→18歳変化率)	548人
18歳	534人	(18歳→19歳変化率)	514人
∪	∪		∪
48歳	739人	(48歳→49歳変化率)	699人
49歳	565人	(49歳→50歳変化率)	738人
50歳	778人		561人
∪	∪		∪

15～49歳の各歳の
女性人口×出生率
(5歳階級刻み)×
男女比

【独自推計と他機関による推計値の違い】



【独自推計による年齢3区分別人口構成比の推移】



将来人口シミュレーションの例

1 出生率の上昇のみによるシミュレーション

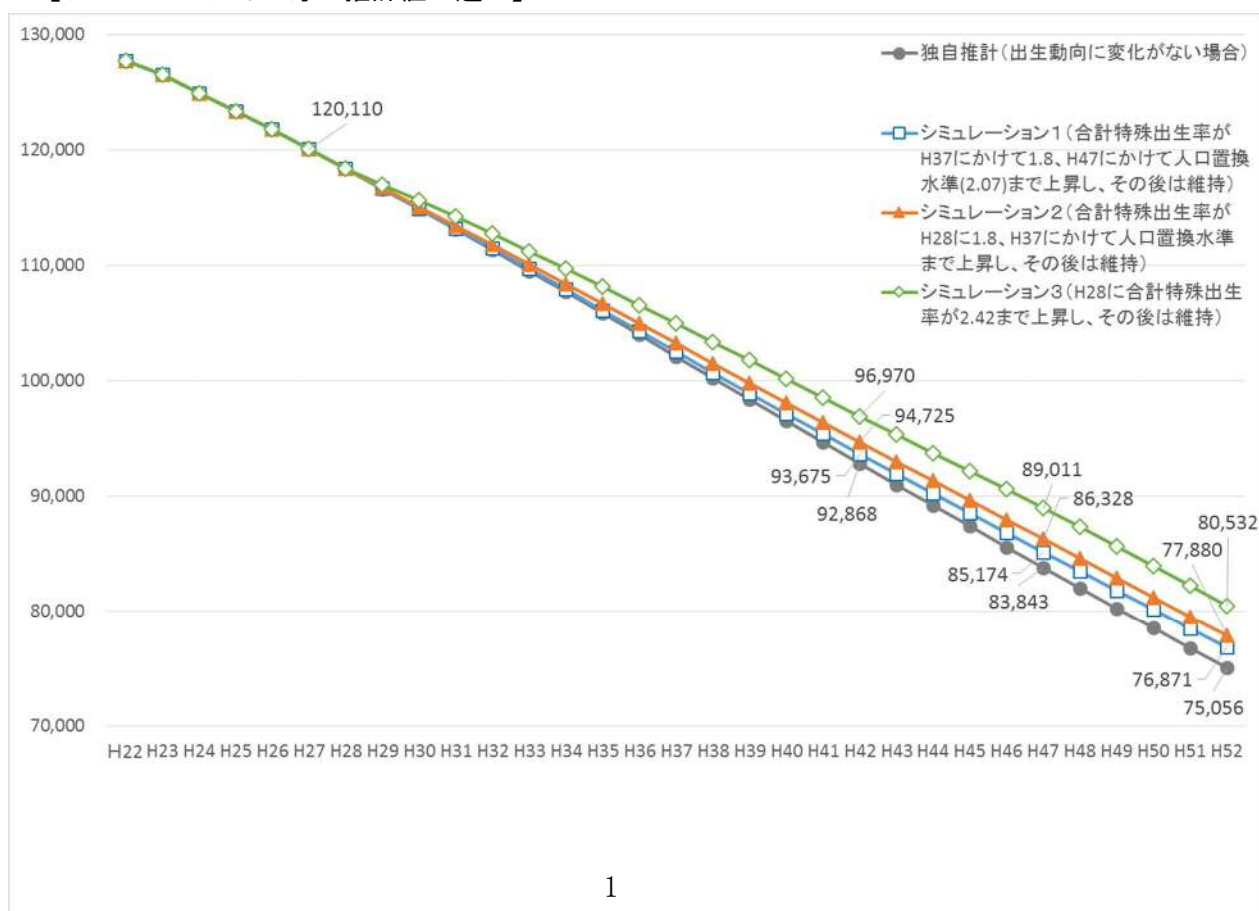
(条件設定)

- シミュレーション1 … 合計特殊出生率が2025(平成37)年にかけて1.8、2035(平成47)年にかけて人口置換水準(2.07)まで上昇し、以降は維持する。
- シミュレーション2 … 2016(平成28)年に直ちに1.8、2025(平成37)年にかけて人口置換水準(2.07)まで上昇し、以降は維持する。
- シミュレーション3 … 2016(平成28)年に直ちに2.42*となり、以降は維持する。

*国立社会保障・人口問題研究所が行った調査による夫婦の理想子ども数

- シミュレーション1では、2040(平成52)年時点で独自推計と比べて約1,800人の増加にとどまる。
- シミュレーション2では、シミュレーション1と比べて約1,000人の増加となり、若干ではあるが、早期の出生率上昇が人口減少の抑制には効果があると考えられる。
- シミュレーション3でも、独自推計と比べて約5,500人の増加にとどまる。(※独自推計では2015(平成27)からの25年間で約45,000人減少)

【シミュレーション毎の推計値の違い】



2 出生率の上昇と社会減の改善によるシミュレーション

(シミュレーションの方法)

(1) 出生率

2025（平成 37）年の合計特殊出生率を任意に設定し、2015（平成 27）年から 2024（平成 36）年までの間は設定値まで段階的に増加するものとする。なお、それ以降についても合計特殊出生率を任意に設定する。

(2) 社会増減

将来推計と比較した 2025（平成 37）年の社会減の改善（転入の増と転出の減の合計）人数を任意に設定し、2016（平成 28）年から 2024（平成 36）年までの間は設定値まで段階的に改善、2026（平成 38）年以降は設定値が維持されるものとする。

なお、社会減の改善は 18 歳～39 歳の男女に均一に表れるものとする。

例) 社会減の改善（転入の増と転出の減の合計）

平成 27 年	28 年	29 年	30 年	31 年	32 年	33 年	34 年	35 年	36 年	37 年	37 年
0	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	500
										設定値	

※ 人数は将来推計と比較した改善分であることに注意

(28 年から 37 年は転入増加等が毎年 50 人増えるが、38 年以降は 37 年と同数となる)

(条件設定)

- シミュレーション 1 … 合計特殊出生率が 2025（平成 37）年にかけて 1.8、2035（平成 47）年にかけて人口置換水準（2.07）まで上昇し、以降は維持する。
- シミュレーション 2 … 社会減が 2025（平成 37）年にかけて将来推計から 541 人（H22～H26 の 18 歳～39 歳人口の平均減少数）改善し、以降は維持する。
- シミュレーション 3 … シミュレーション 1（出生率）とシミュレーション 2（社会減改善）の両方を適用

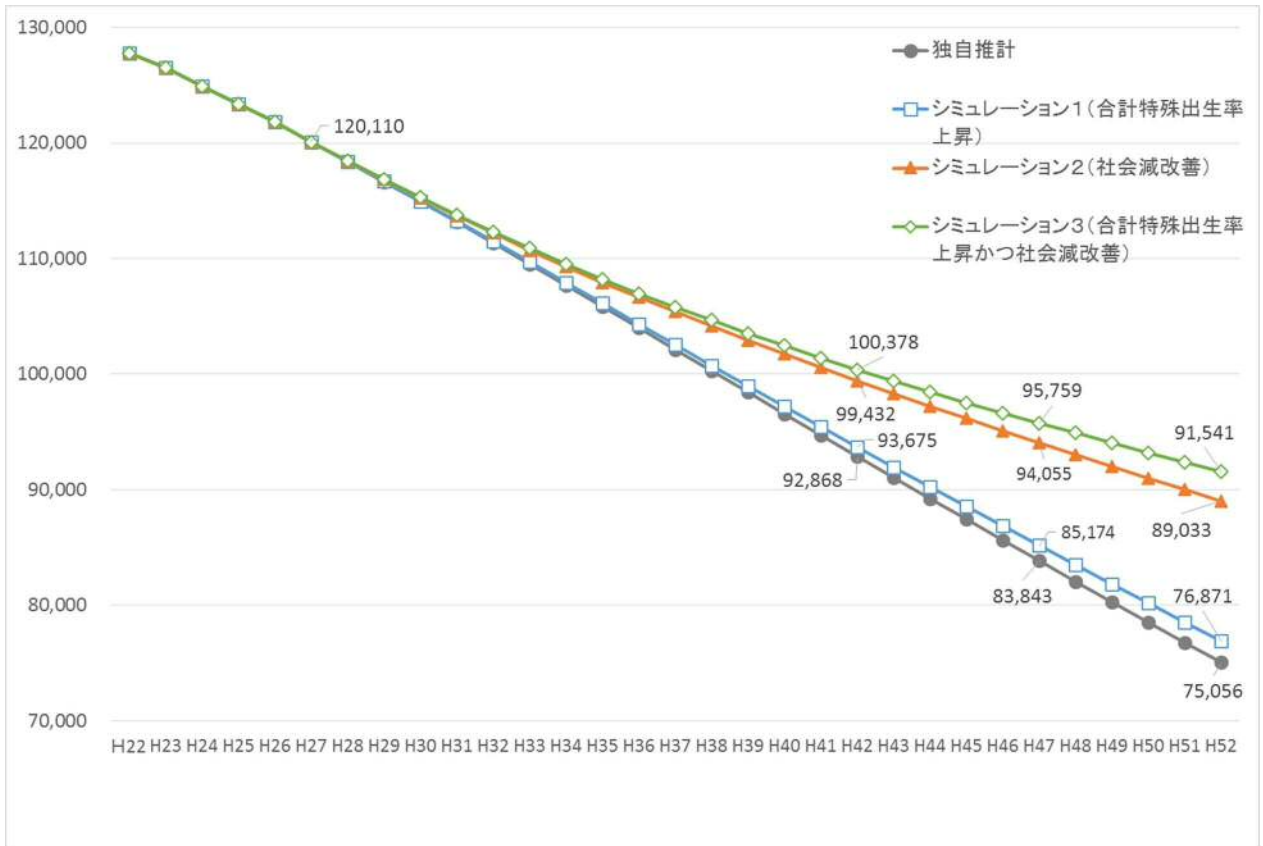
○ シミュレーション 1 では、2040（平成 52）年時点で独自推計と比べて約 1,800 人の増加にとどまる。

○ シミュレーション 2 では、独自推計と比べて約 14,000 人の増加となる。

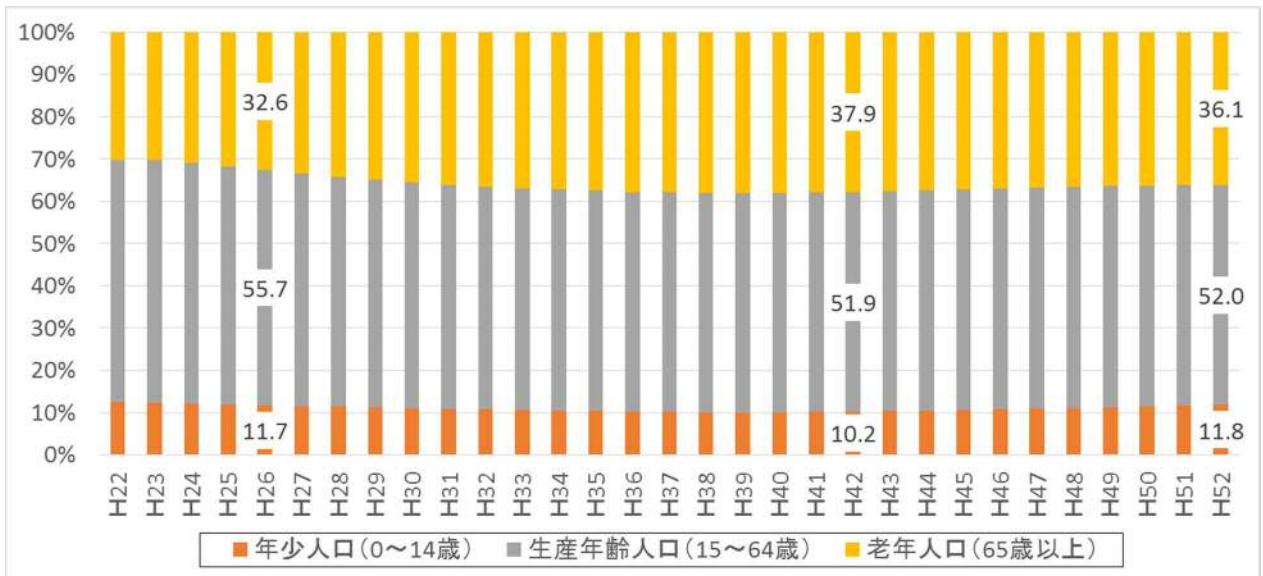
○ シミュレーション 3 では、シミュレーション 2 と比べて約 2,500 人の増加となる。

なお、年齢 3 区分別人口構成比は、生産年齢人口及び年少人口の割合が下げ止まり、上昇に転じる。

【シミュレーション毎の推計値の違い】

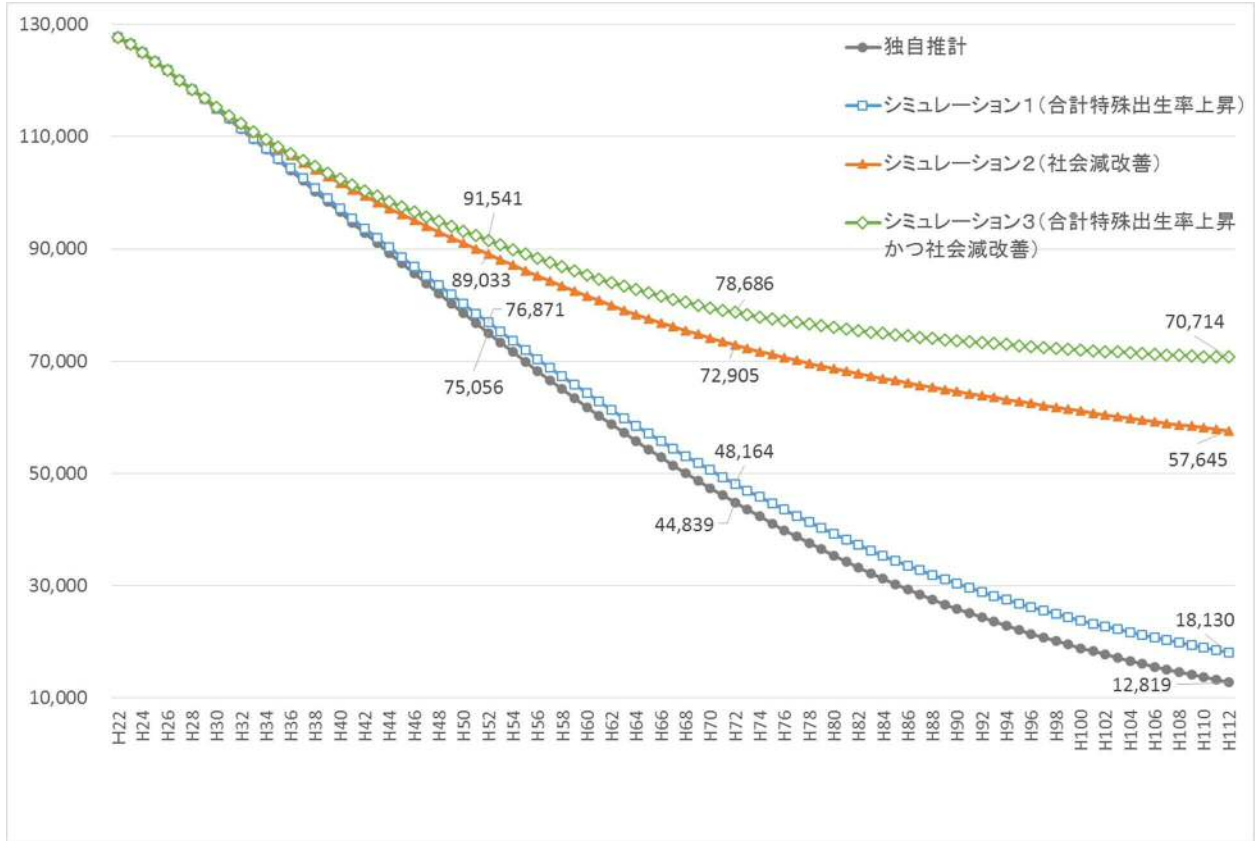


【シミュレーション3による年齢3区分別人口構成比】

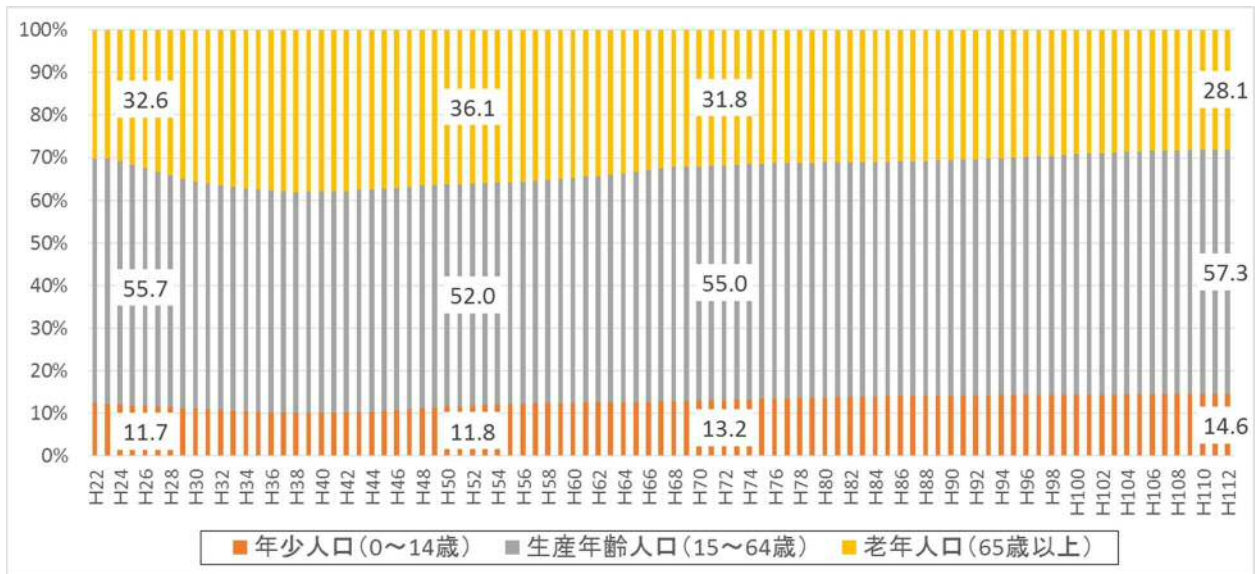


- 参考として、同じシミュレーション（出生率のみ2050年以降2.3に上昇と仮定）を2100（平成112）年まで継続した場合、シミュレーション3では、将来人口は安定する。

【(参考) シミュレーション毎の推計値の違い (超長期)】



【(参考) シミュレーション3による年齢3区分別人口構成比 (超長期)】



一関市人口ビジョン 骨子案

1 人口の現状分析

(1) 人口動向分析

- 当市の人口は昭和 30 年代のピーク時から減少し、老年（高齢者）人口の割合が高くなっています。
また、高齢夫婦世帯及び高齢単身世帯の数や、全世帯数に占める構成比が増加しています。
- 人口減少は社会減と自然減の両方が要因となっていますが、近年は自然減が社会減を上回っています。なお、出生数は減少傾向である一方、死亡数は増加傾向であることから自然減が大きくなっています。
- 出生数の減少は、出生率の低下及び女性人口の減少と連動しています。
- 近隣市町村からは流入超過となっていますが、市全体としては流出超過（社会減）となっています。流出超過の状況をみると、都道府県別にみると県内、宮城県、千葉県の順に多く、東京圏（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県）を一括りとすると東京圏が最も多くなっています。
- 社会減について、年齢階級別では 20 代後半に若干の流入が見られるものの、18 歳前後から 20 代前半にかけて大幅な流出が見られます。

(2) 将来人口の推計と分析

- 何ら対策を講じず現状のまま推移した場合、当市の人口は 2040（平成 52）年で 7 万 5 千人程度まで大幅に減少する見込みです。
- 今後、出生率が上昇した場合や、社会減の状況が改善された場合も、ペースは若干緩やかになるものの、人口は将来的に減少する見込みです。

(3) 人口の変化が地域の将来に与える影響の分析・考察（分析中）

2 人口の将来展望

(1) 将来展望に必要な調査・分析

（結婚・出産・子育て、転入及び転出に関するアンケート調査を実施中）

(2) 一関市が目指すべき将来の方向

少子化、高齢化及び人口減少の進行により地域の活力の低下など多方面に大きな影響が及ぶことが懸念されます。一関市が活力あるまちとしてさらに発展していくためには、地域の魅力を高め、人口減少に結びついている要因を解消していくとともに、当市への新しい人の流れを生み出していく必要があります。

① 市民が力を発揮できる仕事を創出し、若者や女性が集うまちを目指します。

地域資源や地域特性を生かした事業の創出や誘致に取り組むとともに、既存産業の振興を図り、若者が地域に定着するまちを目指します。

また、市民活動や経済活動を活性化させていくため、若者をはじめ多くの方々が当市に移住する人の流れを生み出していく必要があります。

② **社会全体で子育てを支援し、次代の担い手を応援するまちを目指します。**

豊かな自然、安全・安心な食など、子育てに適した環境を更に伸ばしながら、子どもの成長過程に合わせて、保健、医療、保育、教育、就職、結婚などの各分野において、点ではなく、それぞれが線につながる一連の施策をさらに推進して、切れ目のない子育て支援を行い、出生率の向上を図っていく必要があります。

③ **心豊かに安心して暮らせる、誇りと愛着が持てるまちを目指します。**

医療・福祉や防災など安全な環境を築くとともに、生きがいきづくりや健康寿命を延ばすための取り組みを進め、心豊かにいつまでも安心して暮らせるまちを目指し、地域の魅力を高めていく必要があります。

(3) **人口の将来展望**

(アンケート調査・分析等を踏まえた人口シミュレーションに基づき、将来展望を行います)

(参考) 平成 27 年度第 2 回一関市総合計画審議会資料(前期基本計画の体系案について)より抜粋

○ 重点プロジェクトとは

- ・基本構想の実現に向け、重点的かつ優先的に実施すべきテーマを設定し、施策の考え方、進め方、展開策を示すもの。
- ・迅速かつ柔軟に行政課題に対応できるよう、分野別計画の枠組みにとらわれず、横断的に対処すべき取組をまとめたもの。

1 まち・ひと・しごとプロジェクト

(1) 現状と課題

人口減少、少子高齢化

(2) 目標

- ・人口減少に歯止めをかける
- ・一関市の特徴を生かし、活力あるまちを創造する。

しごとがひとを呼び、ひとがしごとを呼び込む好循環を確立するとともに、その好循環を支え、まちに活力を取り戻し、一関市の人口減少に歯止めをかける。

雇用の質(安定した雇用形態、やりがいのあるしごと)を上げ、量を確保し、結婚・出産・子育てへの切れ目のない支援を行い、一関市の特徴を生かしたまちづくりを行う。

(3) 施策の展開

① しごとづくりプロジェクト

【中東北の拠点都市】

- しごとをつくる
- 移住者を増やす、新しいひとの流れをつくる

② 子育て応援プロジェクト

【結婚支援、子育て支援、子育て支援】

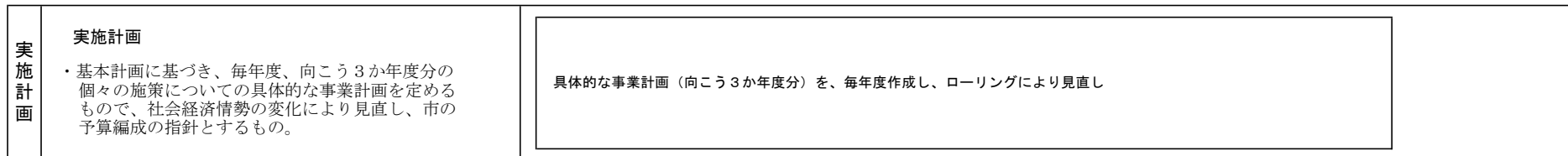
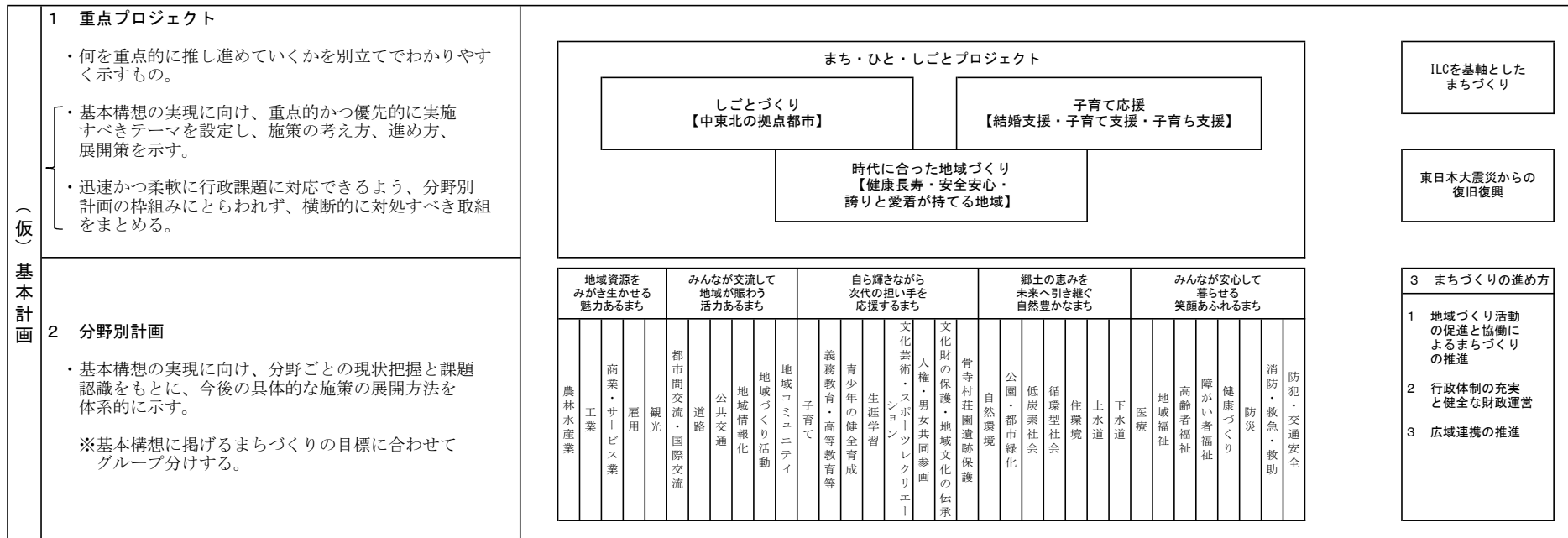
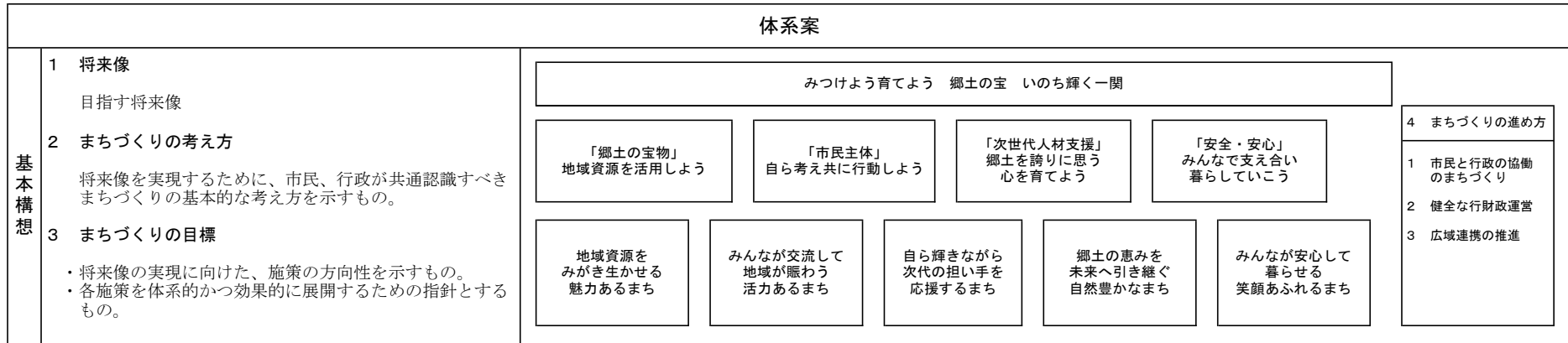
- 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

③ 時代に合った地域づくりプロジェクト

【健康長寿、安全安心、誇りと愛着が持てる地域づくり】

- 生きがいづくりと健康長寿の取組
- 持続可能な地域づくり

次期総合計画体系案



総合戦略の構成（「地方版総合戦略策定の手引き（内閣府）」より）

<p>(例)《基本目標》本県への新しいひとの流れをつくる</p> <p>数値目標：・県全体で、県外からの転入者数：5年間で〇〇人増加 ・県全体で、県外への転出者数：5年間で〇〇人減少</p>	基本目標
<p>《基本的方向》</p> <p>○ 移住希望者の視点に立ち、雇用や住まい、教育等の移住の受け皿に関する総合的な環境整備を行うとともに、全国移住促進センターの活用などを通じて、移住希望者向けの情報提供に取り組む。</p> <p>○ 本県においては、若者の大学進学時や就職時に東京圏への転出が多数に及んでいることから、県内に所在する大学等の活性化、企業等における地方採用・就労の拡大に取り組む。</p>	基本的方向
<p>《具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）》</p> <p>(ア)本県への移住の促進</p> <p>①移住・交流の専門相談員の配置 県の移住相談センターに移住・交流に関する専門相談員を配置し、インターネット等により本県に関心を持った人に対する相談窓口を整備する。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;">重要業績評価指標（KPI）：センターを通じた移住者数 〇〇件（5か年分の累計）</p> <p>（具体的な事業）・移住・交流相談促進事業 ・〇〇〇〇事業</p> <p>②空き家バンク等住宅情報の提供体制整備 県内の各市町村における空き家情報を統合し、一元的に情報提供する。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;">重要業績評価指標（KPI）：空き家バンクに情報提供した市町村数 〇〇市町村</p> <p>（具体的な事業）・空き家バンク活用促進事業 ・〇〇〇〇事業</p> <p>(イ)企業の地方拠点強化、企業等における地方採用・就労の拡大</p> <p>①サテライトオフィス、テレワーク環境の整備の推進 県内各市町村によるサテライトオフィス、テレワーク環境の整備を推進し、県の移住相談センターとも連携しながら、企業の県内拠点の強化や県内での採用拡大につなげる。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;">重要業績評価指標（KPI）：県内でテレワークを導入する企業数 〇〇社</p> <p>（具体的な事業）・テレワーク実証実験事業 ・〇〇〇〇事業</p> <p>(ウ)大学等の活性化</p> <p>①地元大学への進学促進 県内にキャンパスを有する大学等の活性化の取組を支援し、高等教育段階における地元進学を促進する。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;">重要業績評価指標（KPI）：自県大学進学者の割合 〇〇%</p> <p>（具体的な事業）・高校と大学との交流促進事業 ・〇〇〇〇事業</p>	具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）

一関市まち・ひと・しごと創生総合戦略 骨子案

1 総合戦略の基本目標（人口ビジョンに掲げる、一関市が目指すべき将来の方向）

- (1) 市民が力を発揮できる仕事を創出し、若者や女性が集うまちを目指します。
（目標）仕事や移住に関する願いに応え、社会減を解消する。
- (2) 社会全体で子育てを支援し、次代の担い手を応援するまちを目指します。
（目標）若い世代の就労、出会い、結婚、妊娠・出産、子育ての環境を整備し、出生率を向上させる。
- (3) 心豊かに安心して暮らせる、誇りと愛着が持てるまちを目指します。
（目標）生活を支える基盤の強化を進め、地域の魅力を向上させ、住みやすさを高める。

2 具体的な施策・施策ごとの重要業績評価指標

- (1) 市民が力を発揮できる仕事を創出し、若者や女性が集うまちを目指します。

- ① 安定した雇用を創出する

KPI（重要業績評価指標）の例

：製造業の製造品出荷額等、起業件数、新規立地・増設件数、付加価値額、
研究機関等との共同研究数、6次産業化事業化件数、人材育成事業受講者数

- 地場産業の振興
- 雇用の場の創出（創業・起業支援、企業誘致）
- 技術力・経営力の強化支援
- 物産のブランド化、6次産業化の推進
- 人材の育成

- ② 新しいひとの流れをつくる

KPI の例：県外からの移住・定住者数、空き家バンクの交渉申込件数、市 HP 閲覧数、住みよさランキング、観光入込客数、新規高卒者の管内就職率、高等教育機関卒業生の地元就職率、中心市街地空き店舗率

- 移住定住の促進
- 効果的な情報発信による知名度の向上
- 観光振興や観光資源の整備
- 若者の地元就職・定着の推進
- 商店街の空き店舗対策

(2) 社会全体で子育てを支援し、次代の担い手を応援するまちを目指します。

① 若い世代の結婚・出産の希望をかなえる

KPI の例：いちのせき結婚活動サポートセンターの会員登録数、縁結び支援事業の利用者数、婚活イベントへの参加者数、特定不妊治療を受けている方への助成実績

- 結婚支援（出会いの場の創出など）
- 妊娠・出産への支援

② 安心して子育てを楽しめる環境の形成

KPI の例：母子健康相談・家庭訪問事業の訪問率、一関市ファミリーサポートセンター登録者数、15歳以下の子の転入・転出数、待機児童数、「いわて子育てにやさしい企業等」認証企業数、「自分のまちを愛する」という気持ち強い方だと答えた中高生の割合、不登校の出現率

- 子育て支援の充実
- 教育環境の充実
- 就労環境の整備

(3) 心豊かに安心して暮らせる、誇りと愛着が持てるまちを目指します。

① 地域で安全に安心して暮らせる環境の整備・充実

KPI の例：市内病院勤務医師数、医師・看護師等修学資金利用者数、介護職就職者数、地域包括支援センターの設置数、住宅耐震化率、自主防災組織の組織化率

- 医療、福祉・介護体制の充実
- 地域生活の支援
- 暮らしの安全対策

② 生きがいを持ち健康長寿で暮らせる環境づくり

KPI の例：集団健康教育延べ参加者数、がん検診受診率、介護予防事業参加者数、老人クラブ加入率、ふれあいサロン開催日数

- 健康づくりと介護予防の促進
- いきいきとした生活を送るための環境づくり

③ 将来にわたって持続可能な地域づくり

KPI の例：地域協働体設立数、他市町との連携事業数、エネルギー消費量に占める新エネルギーの割合、一般廃棄物のリサイクル率

- 地域コミュニティ活動の活性化
- 行政機能の効率化
- 地域間の連携
- 社会資本の効率的な維持管理
- 資源・エネルギー循環型のまちづくり